# 教育学科専門科目「体育実技（野外活動）」

## ⛰️“国立妙高青少年自然の家”に行ってきました⛷️

教育学部の専門科目には「体育実技（野外活動）」という授業があります。この授業では、様々な体験活動を夏季と冬季に分けて実施します。夏季の実習では、9/9～11 の 3 日間、皇學館大学内および伊勢市内を中心とした活動を行いました。初日にアイスブレイクや自然体験活動の総論、応急処置などを座学において学びを進めた後、伊勢市古市街道（かつてのお伊勢参りのメインストリート）散策のウォークラリーや、川辺の安全管理の学習、野外炊飯、キャンプファイヤーのつくり方など、自然体験活動指導者（NEAL リーダー）に必要な、幅広い知識を身につける事ができました。

また、冬季実習では、2/17～20 の４日間、新潟県妙高市にある国立妙高自然の家での体験活動を行いました。この実習では、雪山（妙高）に登り、スキーはもちろんの事、雪像やイグルー（かまくら）を作り、ナイトカフェと称して、昼間に作ったイグルーの中で、みんなで湯茶を片手に近況報告や未来を語り合います。

近年、急速に発達する技術に伴って、インターネットやテレビ等を介して感覚的に学びとる「間接体験」や、シミュレーションや模型等を通じて模擬的に学ぶ「擬似体験」を行いやすい環境が整備されてきつつあります。一方で、これらの機会が圧倒的に多くなった今、子どもたちの成長にとって負の影響を及ぼしていることが懸念されています。

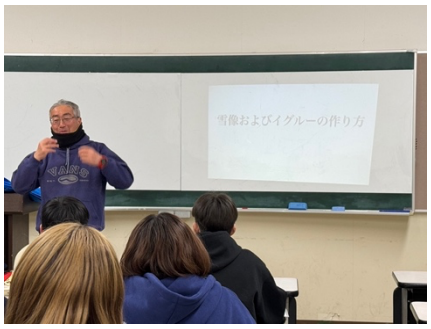
本実習で行うことができる「直接体験」は、自分の身体を通して実際に経験する体験のことであり、子どもたちがいわば身体全体で対象に働きかけ、実物に実際に関わっていく活動の事を指します。「体験活動」は、豊かな人間性、自ら学び、自ら考える力などの生きる力の基盤、子どもの成長の糧としての役割が期待されています。つまり、思考や実践の出発点あるいは基盤として、思考や知識を働かせ、実践して、よりよい生活を創り出していくためには「体験活動」が必要であるとされているわけです。

今後の教育において重視されなければならないのは、ヒト・モノや実社会に実際に触れ、かかわり合う「直接体験」であるとされており、「直接体験」を指導することができる教員は、そうでない教員に対してより魅力的な教員であると言えるでしょう。

皇學館大学では、さまざまな体験的な経験「知」を積み上げた教員・社会人を養成する為に、教職員が学生さんと一体となって共に汗をかきます。

文責：教育学部准教授　佐藤武尊

出典：文部科学省_1.1.体験活動の教育的意義より（※一部加筆修正）


雪像およびイグルーの作り方

2月17日(日)
18:10 夕食
19:00 講義
オリオンにて
21:00 入浴
22:00 おやすみ

コロちゃん